

令和6（2024）年度

白岡市教育委員会の
点検・評価に対する意見書

吉 野 高 男

板 垣 時 夫

令和7（2025）年3月

令和7年3月19日

白岡市教育委員会の点検・評価に対する意見書

吉 野 高 男（よしの たかお）

（元白岡市立小・中学校校長会会長、元白岡市立南中学校長）

板 垣 時 夫（いたがき ときお）

（白岡市文化財保護審議会会長、埼玉県文化財協会副会長）

はじめに

《白岡市教育行政の基本理念》

白岡市教育委員会の基本理念は、『「学び楽しむまち」を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な人間を育成するとともに、家庭・地域・学校が一体となって、市民一人一人のライフステージに応じた教育・学習活動を推進する。また、特色ある地域文化を活かしつつ、「白岡らしさの発見と創造」を図り、あらゆる機会と場所で自由に「学び」「楽しみ」「創る」ことのできる生涯学習社会を実現する。』ことを目指している。

《本制度の趣意》

この白岡市教育委員会点検評価報告は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、白岡市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価したものである。

この点検及び評価の対象は、「第6次白岡市総合振興計画（基本構想・前期基本計画）」、「第3期白岡市教育振興基本計画」等に基づき、令和6（2024）年度に教育委員会が実施・推進した施策等について、第三者的立場から、未来に向かって白岡市の教育の一層の発展を願って、公明正大に点検及び評価を行ったものである。

総合評価 …おおむね達成している（約 87% 達成）

昨年度と比較し、わずかだが達成率が上昇した。全体的に、限られた人員と予算で工夫し取組を行っていることが評価できる。

《今年度特に注目すべき事項》

1 白岡市教育振興計画の諸施策の実践

第3期白岡市教育振興基本計画は、「学び楽しむまちづくり～次代を担う人と豊かな文化を育む～」を基本理念として計画・実践され、今年度は3年目の取組となった。新型コロナウイルス感染症の収束後、諸施策のほとんどが従前のように実施できるようになった。むしろコロナ禍を経て取捨選択が進み、一層適正かつ合理的に施策が実施できるようになったとも言えるだろう。そのような中、担当職員の真摯な努力とこれまでよりも一層前向きな姿勢により諸施策が実施されたことを評価する。

また、学校教育においては、「主体的・対話的で深い学び」の充実からその深化が求められる中、GIGAスクール構想による1人1台端末を活用し、児童生徒の「確かな学力」の育成に取り組み、成果をあげていることを評価する。また、それらの実践の成果として、本市の児童生徒は、全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査において、高い学力を維持していることを評価する。

2 家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成の推進

本市では、積極的に地域人材を活用するとともにその教育力を導入することで、家庭・地域・学校が一体となって児童生徒の育成が推進されていることを評価する。

また、全ての小・中学校に学校運営協議会が設置され、その取組も本格化し、地域の実情を踏まえた特色ある開かれた学校づくりに大きく寄与していることを評価する。

《今年度の点検・評価の基本的視点》

- (1) 第3期白岡市教育振興計画に基づき施策が着実に実践されているか
- (2) 地域と連携した学校教育及び社会教育活動が着実に実践されているか

1 《家庭・地域の教育力の向上》に対する意見

(1) 家庭教育活動の充実

ア 親力の育成

家庭教育学級の合同講座が今年度2回実施された。いずれも子育て世代に関心の高いテーマで行われ、多くの出席者があった。事後のアンケート結果から参加者の満足度が高かったことがうかがえる。これが各小・中学校における家庭教育学級の実践の参考になればさらに有益であろう。

イ 家庭教育活動における指導者育成

市内の6小学校の就学時健診時に実施した「親の学習」講座の実施には、家庭教育アドバイザーが派遣された。その際にアドバイザー間の情報交換会で作成したレジュメ等を配布及び活用したことは良い取組であった。

また、埼玉県家庭教育アドバイザーを講師として招き「親の学習」講座の模擬講座を行い、講座について意見交換を行ったことは意義ある取組である。家庭教育アドバイザーの情報交換会は、課題を共有し経験を蓄積する場となることを期待する。

今後も各PTAと連携協力しながらスキルアップを図るとともに、その機能を一層確実に発揮できることを期待する。

(2) 家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる取組の推進

ア 体験的な学習機会・活動の充実

白岡市は自然環境に恵まれているが、実際に体験的な学習の機会は少ないと思われる。そのような中で行われる、田んぼの学校、自然観察会、自然ふれあい体験教室、わいわい料理教室は、子ども達が学校とは異なる場での体験学習の機会が提供され、貴重で大変意義ある取組である。

田んぼの学校は田植えから稲刈り、しめ縄作りと、主食である米がどのような過程で収穫されるのか、米作り体験を通して農業のあり方や食の重要性について学ぶ場を提供していることで、今日的にも意義

深いと言える。収穫した稲束からしめ縄作りまで行う、大変よい企画である。

自然ふれあい体験教室では参加が11名と少ないように思われるが、日程設定や参加者の動向を考慮しながら、多くの子供たちが参加できるよう工夫し、この取組が長く継続されることを願う。

また、これらの取組に関わることのできる人材の確保と併せて保護者・児童への周知方法の工夫により参加者の増加を課題としてほしい。

イ 放課後や週末などの子どもたちの居場所づくりの推進

放課後子ども教室は、今年度は新たに白岡東小学校が加わり、菁莪小学校、大山小学校の3校で実施されたことが評価できる。年間に実施されたプログラムは、マーブルリング、七夕作り、ペットボトル工作など多彩であり、子ども達が興味関心を寄せるものになっており工夫を感じられる。これだけのプログラムを実施するには、通常のスタッフをはじめ、コーディネーターや教育活動サポーター、さらにボランティアで構成され、子どもたちを地域の大人たちが見守っている安心感があり、参加した子供たちにとっては授業や家庭では体験できないことを楽しめることで満足度も高いと思われる。

スタッフ、ボランティア等が事業運営に尽力していることを評価するとともに、この事業が地域の子育てネットワークの構築の推進に寄与すること、そして「放課後こども教室」が市内のすべての小学校区で実施されることを期待する。

ウ 地域の子育て支援活動の促進

地域の子育て・家庭教育に関わる団体間での課題の共有、交流や共同事業は地域の子育て力のアップに必要なことである。このような中で「町ぐるみん白岡」と、今年度からの事業の「トークフォークダンス」が開催された。地域一体となった子育て支援活動が推進できたことを評価する。

「ひこべえ森、冬のつどい」での交流会は、「町ぐるみん白岡」とおやじの会だけでなく市内の中学生も参加した事業として実施されたもので評価する。

今後こうした団体の担い手を充足させることにも注力し、イベン

ト等を通して交流を深めて、地域一体となった子育て支援の輪を広げる努力を続けてほしい。

2 《学校教育の充実》に対する意見

(1) これからの時代に求められる資質・能力の育成

ア 確かな学力の育成

「主体的・対話的で深い学び」の充実を図るために各校で研修を推進し、課題発見・解決能力の育成を図ったことを評価する。

また、本市の児童生徒は全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査において、全国平均・県平均を上回り高い学力を維持している。このことは高く評価できる。

今後は、「主体的・対話的で深い学び」の充実からその深化と恒常化を目指して「協働的な学び」を中心とした授業づくりの研修・実践が全ての学校において推進されることを期待する。

また、1人1台端末の活用が、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の相乗的な効果により、学びを深めるための授業づくりにつながっていくよう努めてもらいたい。そして、本市の全ての教室が誰もが互いにつながって学び合う教室であることを強く願う。

イ 社会変化へ対応する力の育成

外国語教育、国際理解教育の充実のため、ALTを全中学校に各1名また、小学校6校に対し2名配置し、成果をあげていることを評価する。今後は、小・中の連携や授業時以外のALTの積極的な活用を促し、一層質の高い活用を期待したい。さらに小学校においても全ての学校に配置できることを期待する。

1人1台端末を生かした教育活動を推進する上で、情報モラル教育は必須である。児童生徒、保護者への啓発および教職員の研修の実施などに取り組んでいることが評価できる。今後、保護者への啓発活動をさらに工夫して一層広く多くの保護者に「自分事」として心に届くものになることを期待する。

(2) 豊かな心、健やかな心の体の育成

ア 体験的活動の推進と豊かな心の育成

特別の教科道徳を着実に実践したことと家庭用「彩の国の道徳」の周知により、道徳教育の充実を図ったこと、そして人権教育の推進を図ったことを評価する。とりわけ、中学校で生徒会主催の「人権集会」が行われていることは意義深い。人権尊重の大切さを考える機会として全ての生徒の心に届く取組として継続されることを願う。家庭用「彩の国の道徳」については、中学校における家庭への啓発が一層求められる。

イ 命を大切にする教育の推進

教育相談の充実のため、各校が定期的に教育相談連絡会を実施し、それに指導主事も出席し、学校と教育委員会が積極的に情報共有することにより、早期解決に努めたことを評価する。

全小学校に支援相談員を、全中学校にさわやか相談員を、さらに中学校にはスクールカウンセラーを配置することにより、いじめ防止や不登校児童生徒対策にきめ細やかに対応したことを評価する。

可能であるならば、スクールカウンセラーを全中学校に毎週1日配置し、小学校にも出向くことができるような環境が整うことを願う。

ウ いじめ防止対策の推進

いじめ防止対策推進委員会(定例会)を着実に実施し、協議事項を各校に周知することでいじめ防止について啓発を図ったことを評価する。この取組は、不断に継続することが何よりも大切である。学校と家庭・地域、並びに行政機関が強く連携して子ども達を見守る体制をしっかりと築いていかなければならない。

特に学校においては、いじめの未然防止・撲滅のための取組をこれまで以上に確実に推進することを強く願う。

エ 心身の健康の保持増進

コロナ収束後であってもインフルエンザ等他の感染症を含め基本的な対策を怠ることなく、子ども達が互いのぬくもりを感じながら本当にふれあいのある学校生活を送れる時間が続くことを願うばかりであ

る。今後も感染症に関する指導の充実に確実に取り組んでもらいたい。

ヤングケアラーの問題は現在喫緊の社会問題となっている。教職員研修を一層充実させ、教職員のみならず生徒にも理解を深めさせるよう継続的に取り組んでほしい。また、学校と関係機関が密接に連携し、児童生徒の家庭状況を把握することも積極的に進めてほしい。

(3) 教職員の資質・能力の向上

ア 教職員の資質・能力の向上

G I G Aスクール構想を推進する上で、教職員の I C T、情報管理（含セキュリティ研修）研修は欠かすことができない。本市では計画的に開催し、スキルアップを図っていることを評価する。さらには、授業の中での端末利用が「個別最適な学び」と「対話による協働的な学び」との相乗効果を生むような活用のあり方を十分に研修してほしい。

教員の質の低下が叫ばれる中、若手教員の育成は重要課題である。本市では新採用者、2年次、7年次にあたる教員の指導力を高めるため、研究授業を中心とした実践的研修を実施しており、このことは評価できる。今後、授業研究を中心に「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを一層深める研修となることを願う。また、中堅教員対象のミドルリーダー育成をねらいとした研修の一層の充実に期待するところである。

白岡市教育の日の研究発表会が再開し、継続されていることは喜ばしいことである。他校、さらには異校種の授業を市内の全教職員が実際に参観して学べる機会は決して多くはない。そして、委嘱校の実践が他校にも着実に広がり定着することを強く望む。この取組は貴重であり、今後も着実に取り組んでもらいたい。

イ 教職員の働き方改革の推進

教職員の働き方改革は、国をあげて早急に解決していかなければならない課題である。本市は、業務内容の精選に早くから取り組んでおり、実績がある。とはいえ、中学校では部活動の指導が教職員にとって、心身の負担を強いていることは過去から現在においても否定

できない。そのような課題を受け、本市では県内においていち早く3年前から持続可能な部活動の推進に取り組んできている。今年度、全中学校で全部活動が地域クラブとして移行できたことを高く評価する。部活動を地域クラブへと移行すれば、それで中学校教職員の働き方改革が完結するわけではないが、大きな歩みであり、今後も研究実践を重ね、生徒も保護者も教員も納得できる形の地域クラブを実現していかなければならない。そうしてこそ初めて生徒としっかりと向き合う時間が確保され、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに勤しむことができる。一層の加速感をもって取り組んでほしい。

(4) 家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成

ア 家庭・地域・学校の連携・協働

全小中学校に学校運営協議会が設置され、定期的に会議を開催し、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりの推進に大きく寄与している。また、教育委員会が主体となって各学校運営協議会間をつなぐ役割を果たした。このことは高く評価できる。

今後は、その充実を目指し一層盤石な組織として発展することを期待する。そのために、一人でも多くの保護者、地域住民に正しく深い理解をしてもらうための啓発活動を継続的に行っていくことが大切であると考えます。

イ ふるさと意識の醸成

児童にふるさと意識を身に付けさせるためには、小学校3・4年生での社会科授業で郷土理解を深めさせるところが大きい。とりわけ社会科副読本「しらおか」の活用は大切である。副読本の編集に際し、編集委員会を定期的に開催し現場の教員の声を反映させて編集していることは意義がある。特に、県内でもいち早くデジタル版を作成し、それをタブレット端末にインストールして活用していることが評価できる。

女子栄養大学学校給食・食育研究室と連携し、地場産物やSDGsとしての食材である「大豆ミート」を使用した献立を給食で提供することで、児童・生徒のふるさと意識の醸成を図ったことは評価できる。

(5) 児童生徒が安心して通うことができる教育環境の整備

ア 教育環境の整備・充実

学校規模適正化に向けて、計画策定の基本方針を作成し、学校運営協議会での説明やパブリックコメントを実施するなど実現へ向けて確実な取組を始めるとともに、教育シンポジウムを開催して市民への啓発を行ったことなど大きく前進した。このことを高く評価する。

イ 安全安心の確保

教育委員会が主体となって、校長会・教頭会において、施設設備を含めた安全管理の徹底について指導を行ってきたことで大きな事故なく学校運営が行われていることを評価する。また、学校教育全体で児童生徒への安全教育が行われ、大きな事故が起きていないことを評価する。しかしながら、今後さらに予想される交通事情の悪化を考えると、小学校高学年から中学生の自転車の乗り方の啓発指導の充実は一層必要である。

(6) 多様なニーズに応える教育活動

ア 特別支援教育の充実

全小・中学校に特別支援学級を設置し、教育補助員の活用や県立特別支援学校との連携、計画的な巡回指導等により特別支援教育の充実を図っていることを評価する。また、近年の状況を踏まえて通級指導教室を3学級設置し、対象児童の指導が適切に行われていることを評価する。一方でこの教室を担当する教員には高い専門性が必要なので継続的に研修を行ってほしい。さらに、長期的視点をもって担当できる教員の育成に努めてほしい。

イ 不登校児童生徒への支援

不登校児童生徒数の増加は、国全体で見ても大きな課題となっている。本市では教育相談体制の充実を図って対応しているが、特に教育支援センターの役割は大きい。適切な人員配置や常勤の所長を任用するなど、着実な運営ができていることを評価する。

ウ 外国人児童生徒・帰国児童生徒への支援

本市においても外国人児童生徒数は年々増加している。対象児童生徒が一日も早く級友との仲を深め、学級に適応できるよう日本語指導補助員を適切に配置していることを評価する。今後は、多様化が一層進むことが予想されるので多くの言語に対応できるよう人材を確保しておくことが望まれる。

エ 経済的支援

本市では、経済的理由によって就学困難な児童生徒の保護者に対して就学援助制度、特別支援教育就学奨励制度、入学準備金貸付制度などを講じて経済的支援を行っていることを評価する。

今後、市民・保護者へ制度の周知をあらゆる手段を講じて一層強く進めていくことが肝要である。

3 《社会教育の充実》に対する意見

(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実

ア 生涯学習活動の推進

生涯学習活動の中で「ペアーズアカデミー」や公民館講座などは、多様で地域にあった講座メニューを市民に積極的に提供していることを評価する。今後も趣味の講座をはじめ環境や人権、国際問題など今日的な課題も取り上げて取り組んで欲しい。

生涯学習情報の提供では、「生涯学習ガイド」がなくなったことは残念である。多様な年齢層の人たちにも情報を届ける手段として、インターネットや広報の充実、ポスター等の活用を一層工夫して欲しい。

白岡市文化団体連合会については、年々加盟団体や構成員が減少している傾向にある。少子高齢化の中で、文化団体支援のあり方等について検討する必要性が求められている。

イ 生涯学習施設・設備の充実

生涯学習センター〔こもれびの森〕は生涯学習・地域コミュニティ・文化創造の拠点として親しまれ、広く利用されている。

一方、公民館においてはさまざまな講座やサークル活動に利用されているが、施設面では老朽化などの課題もある。公民館は多くの利用者があり、また災害時の緊急避難場所でもあることから、必要な修繕や改修は怠らないよう配慮をお願いしたい。

両施設とも多くの利用者が安心安全に施設を利用できるように、今後も施設の適正な維持管理に務めていただきたい。また、消防訓練は今後も定期的に継続して実施していただきたい。

ウ 図書館機能の充実

こもれびの森の図書館は、いつも大勢の利用者で盛況である。貸出人数や貸出点数に反映され、多くの人に親しまれていることがわかる。これは充実した施設環境、図書資料だけではなく、常に多様なニーズ対応したサービスの充実、バリアフリーサービスの向上のなど、利用者目線のサービスの向上に心がけている成果であり、高く評価したい。欲を言えば、様々な利便性の向上を広く知ってもらう工夫も欲しい。

図書館ボランティア活動も活発で図書館事業をよく支えている。今後も持続的な活動ができるようボランティアの養成にも努めて欲しい。

図書館機能の充実は、目標に掲げた事項を十分に満たしているものであり、今後継続して業務に望んで欲しい。

エ 子どもの読書活動の推進

活字離れが進む中で、子どもの読書活動の推進は重要な事業である。図書館における子どもの読書活動の推進では、おはなし会の開催、夏休み子ども講座での「友だちにすすめたい本の帯とPOPの作り方講座」、子ども司書養成講座などの取組みにおいて、子どもたちに図書館や本に対する興味や関心を深めることが成果としてあげられる。

子ども読書活動を推進する体制の整備、啓発・広報の充実については、図書館を核とした家庭、地域や学校等との連携を強化して行くことが望まれる。

オ 枠組みを超えた生涯学習活動の連携強化

「こもれびの森まつり」は市役所周辺を会場とし、「しらおか秋の彩りフェスタ」の一部として実施され、当日は好天にも恵まれ、多数

の来場者で終日賑わいをみた。様々な催しに大勢の参加者を得て、大きな成果を上げていた。

こもれびの森まつりでは、社会福祉協議会、市民ボランティア団体、日本工業大学などの参加協力を得て、盛りだくさんのイベントや催しに来場者は満足していたようである。普段、図書館に足を向けない層の人たちにも、図書館や歴史資料館を理解いただく良い機会であったと評価する。日本工業大学との連携では、10月に連携協定が締結され、一層の充実と発展を期待したい。

（２）人権教育の推進

ア 人権教育推進体制の充実

白岡市人権教育推進協議会研修会では、DVD視聴形式で「あなたの笑顔がくれたもの～周りから見えにくい障害・生きづらさ～」が行われた。DVD視聴を通し、周りから見えにくい障害についての理解が深められたと思われる。今後も様々な人権問題に視点をあてた取り組みを続けて欲しい。

“じんけん”ふれあいコンサートでは、12月の人権週間に合わせ、市内小中学校の児童・生徒による人権作文の発表や和歌山県にある医療法人宮本病院が運営する地域活動支援センターの講師による講演会が実施された。また、地域活動支援センター櫻に通所する精神障害などの当事者が中心となっているジャンベチームによる演奏の様子の上映や会場での演奏も行われた。宮本病院の講演は当事者に関わる方からの話で説得力があり、理解を深めることができた。欲を言えば、人権作文の発表で中学生が一人発表されなかったことが残念であった。

イ 啓発活動の充実

人権教育の啓発で大きな役割を果たしていた「第33回埼葛人権を考えるつどい」が中止となった。市独自でも“じんけん”ふれあいコンサートを開催しているが、市老人クラブ連合会の人権講話のような機会を増やして、積極的に機会を捉えた啓発活動を望みたい。

「広報しらおか」、「市公式ホームページ」などでの人権教育・人権問題の啓発については、マンネリ化を避けながら、また様々な人権問

題に関心が向けられるよう一層の工夫を望みたい。

(3) 文化・芸術活動の促進

ア 文化・芸術に触れる機会の充実

今年度の文化講演会は11月3日に歌手の木山裕策さんを講師に「夢が自分を大きくする」と題した講演とコンサートであった。充実した講演と演者によるコンサートはまさに文化講演会にふさわしいもので評価したい。来場者も満足されたと思われる。今後も市民に質の高い文化発信を続けて欲しい。

ランチタイムコンサートはコロナ禍以降、中断しているのが現状である。従来の形式にとらわれずに実施できる開催方法を検討していただきたい。

ギャラリー（企画展示室）は、市主催の企画展示のほか、芸術・文化などの分野において、市民や市内サークルの展示が年間を通して行われており、市民の成果発表の機会を提供している。今後も継続して欲しい。

イ 市民の文化・芸術活動の支援

文化団体連合会は、様々な文化活動に関わっている市民が参加している。補助金の交付により、文化祭の実施や「文連だより」の発行など広報活動の支援にもつながる。

一方、文化団体連合会は団体数や会員数の減少が見られ、会員の高齢化とともに今後も減少が続くと思われる。そこで、公民館講座等と連携しながらサークル活動の活性化に努めて欲しい。

(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進

ア 文化財の総合的把握の促進

当市では県内に先駆けて、「白岡市文化財保存活用地域計画」の策定や「白岡市文化財保存活用市民会議」を立ち上げ、先進的に文化財調査・保護事業を展開していることを評価したい。

分野ごとの調査精度の向上では、発掘調査報告書作成・刊行や歴史資料館の企画展図録、歴史資料館紀要の刊行など、少数職員体制の中での実施を高く評価したい。

仏像、美術工芸品、建造物など未実施項目の調査の推進では、仏像調査を全龍寺と常福寺の2か寺で実施し着実に調査を進められた。

市民協働での調査活動やワークショップの促進では、仏像調査の成果を踏まえ、安楽寺と白岡遺産保存活用市民会議との共催で安楽寺所蔵の文化財の一般公開が行われたことを評価したい。

イ 歴史文化の保存と継承

「白岡市文化財保存活用地域計画」に基づき諸事業を着実に実施していることを評価したい。

「白岡市文化財保存活用市民会議」と連携して総会後に公開講演会を実施し、「白岡市文化財保存活用地域計画」の市民への理解促進に努めたり、新たな白岡遺産を目指した白岡遺産の作り方講座を実施するなど今後の展開が楽しみである。

歴史文化の保存と活用のためには防災体制の構築は欠かせない。そのような中での「文化財防火訓練」が消防組合や観福寺、地域住民の参加を得て実施されたことは市民の文化財に対する防災意識の高揚に寄与している。今後は災害が発生した時に備えた文化財救出マニュアル等の整備も進めて欲しい。

ウ 歴史文化の情報発信・普及活用の充実

歴史文化の情報発信・普及活用の充実については、様々な取組みが着実に実施され、大きな成果を上げていることを評価したい。中でも、次に掲げる事業は特に評価する。

文化財調査の成果の速やかな公開では、埋蔵文化財の発掘成果をいち早く市ホームページに掲載している。また、白岡遺産に関する文化財情報では隔月で「広報しらおか」に掲載しており、市民への普及活動として今後も継続して欲しい。

学校との連携強化の促進では、「未来の白岡」の5年間分の応募作品をまとめた絵画展作品集を刊行した。このことが歴史資料館をより一層身近なものとして感じてもらえる機会となることを期待したい。

歴史資料館事業の充実では、資料館だより『のよみち』の発行、企画展図録、歴史資料館紀要の刊行などの成果は少ない職員体制の中での実施であり高く評価したい。

今後も継続的な事業展開を推進していくには、現在の職員体制では困難と思われるので職員体制の強化を望みたい。

エ 市民との連携・協働による歴史文化の保存・活用

「白岡市文化財保存活用地域計画」を市民参加で具現化する組織として、「白岡遺産保存活用市民会議」が設立されたことは大変意義あることで評価したい。

白岡遺産保存活用市民会議との共催で安楽寺の協力を得て実施した文化財の一般公開では113名もの方が参加されたことを評価したい。また、市民会議広報誌の「白岡市文化財保存活用市民会議だより」の発行をとおり多くの市民方への普及活動を推進した。

白岡遺産保存活用市民会議との共催による白岡遺産の作り方講座や自主的なワークショップを開催し、市民提案による新たな白岡遺産候補の検討が行われたことは評価する。

今後も市民との連携・協働による歴史文化の保存・活用をさらに推進して欲しい。

(5) 生涯スポーツの普及・推進

ア 生涯スポーツの普及・推進

生涯スポーツの普及・推進にあたって、スポーツ教室、ウォーキング教室、新体力テスト、白岡新春マラソン大会などを実施し、多くの参加者を得ていることは評価できる。

これらの事業実施にあたっては、職員だけでは運営が難しいなかスポーツ推進委員や白岡新春マラソン大会実行委員など多くのボランティアの協力の下で行われている。今後も良好な関係を維持しながら、市民参加型スポーツとして進めて欲しい。

新春マラソン大会は、好天にも恵まれ1,866名もの参加で開催された。多くのボランティアスタッフが大会準備、当日、片付けと任務にあたっていた。スタッフについては、スポーツ協会加盟団体の減少

等もあり、難しい局面を迎えているが今後も工夫しながら、安全に親しまれる大会として発展することを期待する。

本市におけるスポーツ活動を推進するための基本的な方向性を定める「白岡市スポーツ推進計画」の策定も進めて欲しい。

イ スポーツ指導者の育成

各種スポーツ指導者の育成を目的とした社会体育関係団体指導者等研修会やスポーツ推進研修会の実施をととしたスポーツ指導者の育成は今後も継続して進めて欲しい。なお、スポーツ推進員の研修については、埼葛地区スポーツ推進員連絡協議会等の研修会にも積極的に参加して欲しい。

障がい者スポーツ指導員の育成支援については、今後も継続して白岡アダプテッドスポーツ協議会と連携し、教室を開催して欲しい。

ウ スポーツ施設・設備の充実

勤労者体育センター、市民テニスコート、総合運動公園、白岡公園野球場及びふれあいの森公園運動広場やB & G海洋センターの施設を安全に快適に使用するには施設管理が重要である。B & G海洋センターでは、空調設備の更新、照明のLED化、給排水設備の改修などの大規模改修を実施し、安心、安全な施設で市民の健康増進と体力向上に寄与していることを評価したい。

指定管理者が実施する自主事業の「水泳教室」や「B & G自然体験会」については、B & Gの利用者だけではなく広く市民が参加できよう広報活動等を一層工夫して欲しい。

市民が安心してスポーツに親しめるよう、継続して適切な施設の維持管理と運営を進めて欲しい。

5 さらなる発展のために

私たちはコロナ禍を経て、子どもが成長する上で、子ども同士のつながりがどれほど大切であるかを学んだ。また、笑顔で豊かに暮らす大人達の温かい眼差しを受けていることで白岡を愛する子ども達に成長していくことも痛感した。

全てが日常に戻った今だからこそ、この機を逃すことなく、白岡の子ども達が笑顔であり続けられるよう最大の努力を払わなければならない。そのためには、まず、学校教育において、本市の全ての教室を真の「学び合う教室」にすることが最も大切である。今後の大きく変化する社会を生きぬくためには、「協働」により仲間とつながることの大切さを身につけることが大切だ。「主体的・対話的で深い学び」を画餅に終わらせてはならない。各校の取組の自主性も大切ではあるが、この学びを確実なものにするためには教育委員会の指導力が何よりも肝要である。市内の全ての学校が「学び合う」学校に変わること、白岡市の子ども達は、学力調査の点数で表しきれない本当の意味での「確かな学力」を身に付けられる。骨太の本物の学力を身に付けた子ども達は、いずれ白岡を担い発展させる大切な人材になる。

成長した子ども達が市外へ出て、グローバルに活躍する人材になることは喜ばしいことである。一方で市外、あるいは海外で活躍しながらも「ふるさと白岡」を忘れることなくいつかは白岡に戻ろう、白岡に根を張って生きていこうと思う意識を失わないでほしいと思うのも正直なところである。子ども達が白岡を愛し続けるためにも、大人達が笑顔で豊かに学び続ける姿を示すことが大切である。そして、誰もが生涯にわたって学び続けられる環境が整うことで大人達の連帯と絆が生まれる。コロナ後の新しい日常の中で、文化・芸術・スポーツの活動や事業がこれまで以上に人々の「連帯」や「協働」を促すものになることを期待する。「やってみたい」「行ってみたい」と思える事業を従前以上に積極的に展開することが必要であろう。

基本理念「学び楽しむまちづくり～次代を担う人と豊かな文化を育む～」の実現のためには、子どもはもちろん大人も互いに学び合うことが肝要である。「学び合い」によって連帯と協働が生まれ、絆ができる。それは市民同士のつながりを確固たる共同体（コミュニティ）に発展させる。そのコミュニティの実現のために教育委員会がリーダーシップを発揮することはもちろん、さらにファシリテーターとしての役割を果たすことも期待する。